

「おじちゃん、おばあちゃんと 一緒に学ぼう！遊ぼう」

平成30年7月26日(木)、県庁を身近に感じ、県政への理解を深めることを目的に「夏休み県庁イベント“行こうよ！けんちょうはくぶつかんへ”」が今年も開催され、多くの親子連れの皆さんが県庁を訪れました。講堂エリアでは、入口の地震体験コーナーをはじめ27ブースが設置され、何れも体験型がほとんど。あちこちのブースで子供たちの楽しそうな歓声が上がりました。



そのような中で、長野地区・北信地区賛助会グループでは昨年に続いて「おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に学ぼう！遊ぼう！」と題したブースを設けました。

他の体験型コーナーと違うのは、子供たちが自分で考え創作する体験であるという事。北信地区賛助会グループでは、子供たちと一緒に割り箸と輪ゴムを使ってピストルを作り、完成したら輪ゴムを的に向けて撃つというもので、的に命中した子供は大喜びです。



長野地区賛助会では、4つのグループが参加。「花咲かせよう会」グループは、夏野菜や花を題材にした絵手紙を創る指導をしました。「シニア38書道」グループは、筆がきでA4サイズの大型名刺づくりにチャレンジ。好きな食べ物や将来の夢も添え、大胆なオリジナル名刺ができました。4台のパソコンでお絵かき体験を企画した「IT・Sの会」では、普段はパソコン初心者のシニア向けに活用している教材を子ども向けにアレンジし、夏にぴったりの麦綿ぼうしを描きました。マウスを握る子どもの手にやさしく添えられるメンバーの手が印象的でした。



牛乳パックを再利用したブンブンゴマと竹(牛乳パック)とんぼ作り体験に取り組みされた「芽ぶきの縁側クラブ」では、列をなして待つ子供たちに奮闘しながらも温かい笑顔で楽しい場を作ってくれました。



いっしょに一つのを創り築き上げる過程で「創る」ことの楽しさ・難しさを学び、完成した時の喜び・達成感を分かち合う事により心の交流も生まれる…。核家族化が進み、家族の中でも世代間の交流が希薄になってきている昨今、シニア・子供たち双方にとって価値ある貴重な体験になったと思います。

教えるおじいちゃん・おばあちゃんも、教えてもらう子供たちも真剣そのもの。直ぐ筆を取り躊躇せずに大胆な線を描く男の子、最初の一筆がなかなか進まずに思い余って涙を流す女の子、賛助会の皆さんは一人一人の個性に合わせて丁寧に指導していました。

完成した時の子供たちの満足げな嬉しそうな笑顔に、見ている私達も幸せな気持ちになりました。



文責：
（公財）長野県長寿社会開発センター
長野支部

社会活動推進員 野沢 昌子

